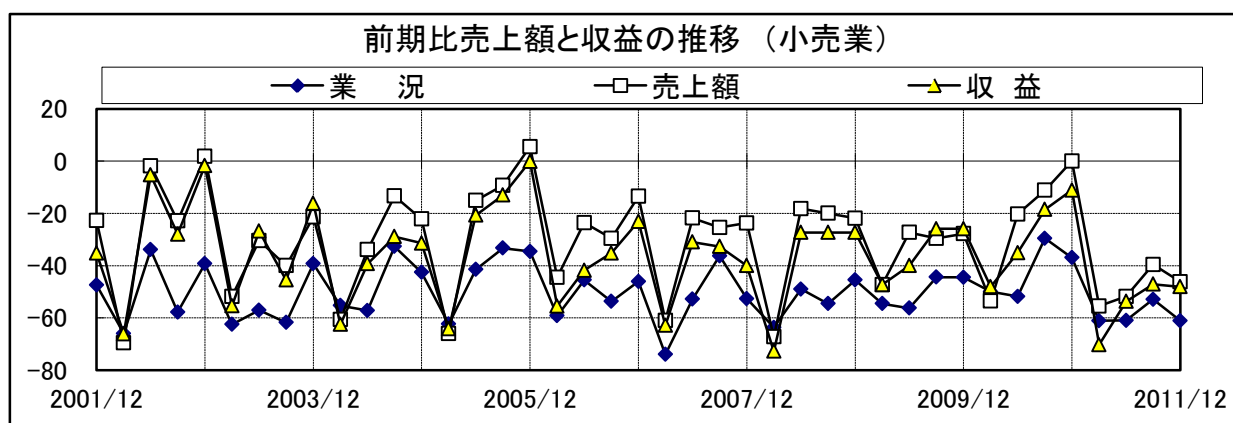


小 売 業 54 企業（回答率 98.1%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-61.0	-52.9	-61.1	-74.0
売上額	-51.8	-39.6	-46.2	-61.1
収 益	-53.7	-47.1	-48.1	-62.9

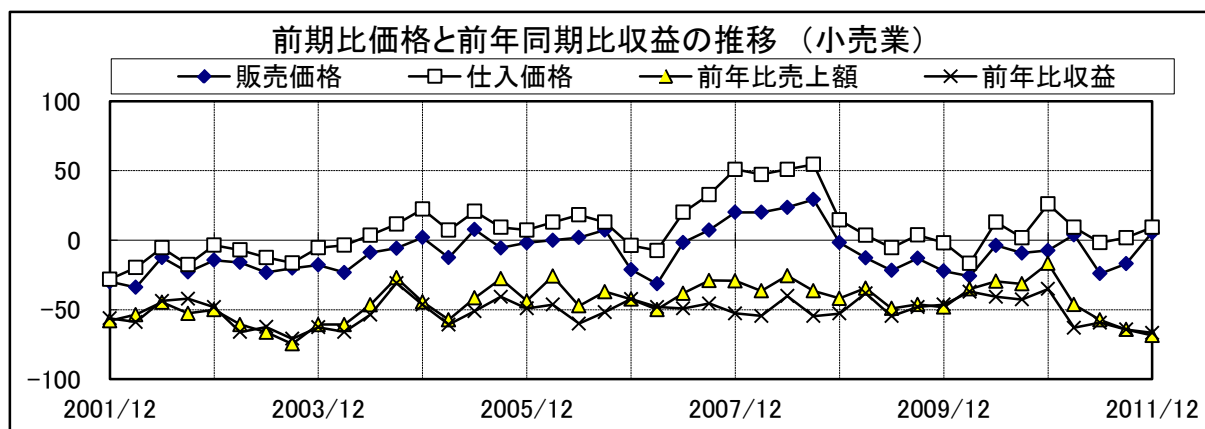
今期の業況判断DIは△61.1と、前期比マイナス幅が拡大、8.2ポイント悪化した。地区別にみると、様似と三石地区ではほぼ横ばいから改善の動きを示した。他の地区では悪化している。売上額、収益判断DIは、売上額が△46.2、収益が△48.1と、前期比それぞれマイナス幅が拡大し6.6、1.0ポイント悪化した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
販売価格	-24.1	-16.9	5.5	-24.0
仕入価格	-1.8	1.8	9.3	-13.0

販売価格判断DI(5.5)は、前期比マイナスからプラスに転じ、22.4ポイント上昇、価格上昇基調に転じている。仕入価格判断DI(9.3)も、前期比7.5ポイント上昇、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、販売価格は衣料品、家電品で上昇、食料品で下降している。仕入価格は衣料品で上昇、食料品と家電品で下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-12.9	-11.3	-5.6	-16.6
人手状況	-7.5	-1.9	-5.5	-1.8

残業時間判断DIは△5.6と、前期比マイナス幅が5.7ポイント縮小し、残業時間が減少したとする企業割合が減った。

人手過不足判断DIは△5.5と、前期比マイナス幅が拡大し3.6ポイント下降、人手「不足」感を強めている。

□ 設備投資の動き

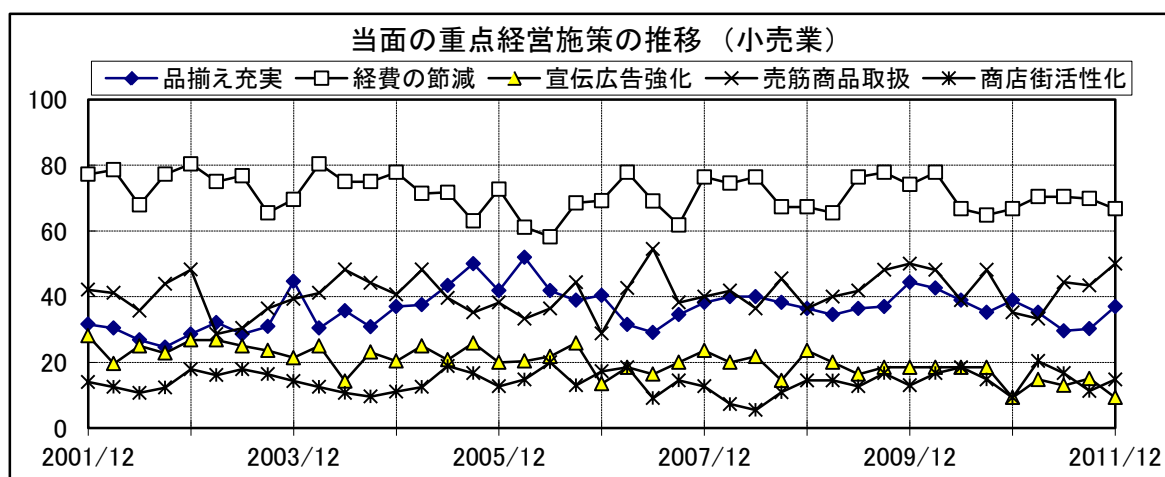
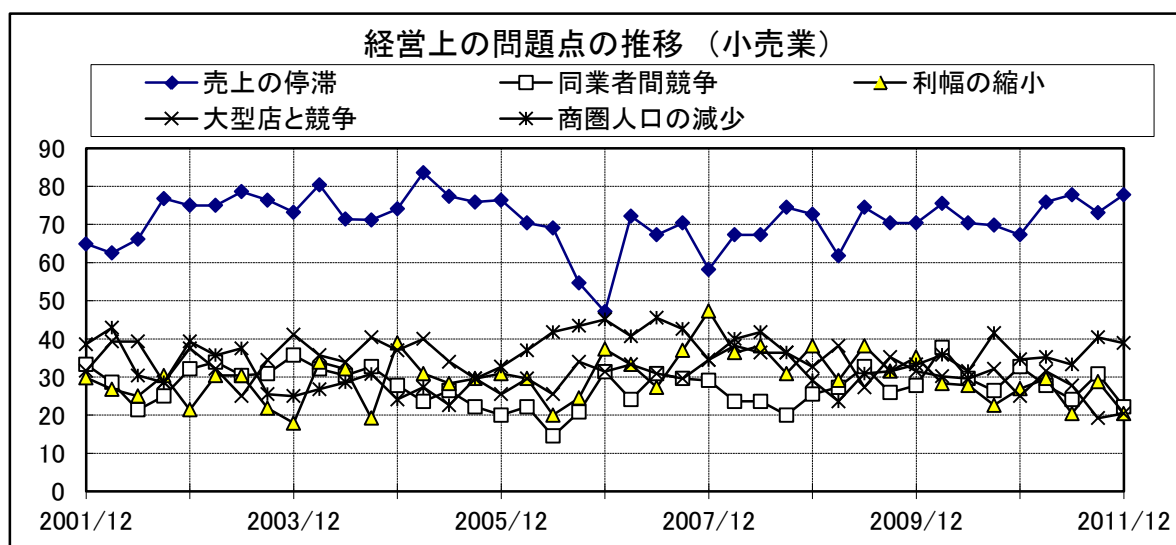
設備投資の充足感を示すD Iは $\Delta 7.5$ と、前期($\Delta 13.2$)からマイナス幅が5.7ポイント縮小し不足感を弱める一方、適正と回答した企業は85.1%と、前期(83.0%)比2.1ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は9.3%と、前期(3.8%)比5.5ポイント上昇、件数で前期の2社に対し5社の実施となった。来期の新規の設備は、当期比3社減の2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」をトップに挙げ77.8%、次いで「商圏人口の減少」38.9%、「同業者間との競合」22.2%、「利幅の縮小」、「大型店との競合」20.4%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ66.7%、次いで「売れ筋商品取扱」50.0%、「品揃えの充実」37.0%、「仕入先を開拓選別」16.7%、「商店街を活性化」14.8%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成24年1～3月期）の予想業況判断D Iは $\Delta 74.0$ と、今期($\Delta 61.1$)実績比12.9ポイントの悪化見通しとなっている。予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が $\Delta 61.1$ （今期 $\Delta 46.2$ ）、収益が $\Delta 62.9$ （今期 $\Delta 48.1$ ）と、今期実績比それぞれマイナス値が14.9、14.8ポイント拡大し悪化の見通しとなっている。予想販売価格判断D I $\Delta 24.0$ （今期5.5）はマイナス値へ転じ、価格低下基調見通しとなっている。予想仕入価格判断D I $\Delta 13.0$ （今期9.3）も22.3ポイント下降し価格低下基調へ転ずる見通しとなっている。

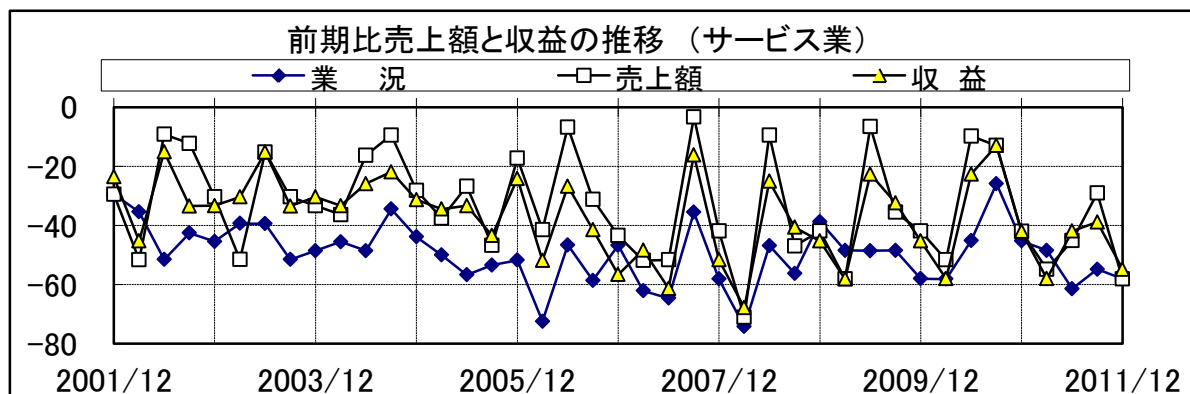
サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-61.4	-54.8	-58.0	-61.4
売上額	-45.1	-29.0	-58.1	-61.3
収 益	-41.9	-38.8	-54.8	-61.4

今期の業況判断DIは△58.0と、前期比マイナス幅が拡大し 3.2 ポイントの悪化となった。地区別にみると、浦河、静内地区が改善し、三石、えりも、広尾地区で悪化している。様似地区は横ばいとなっている。

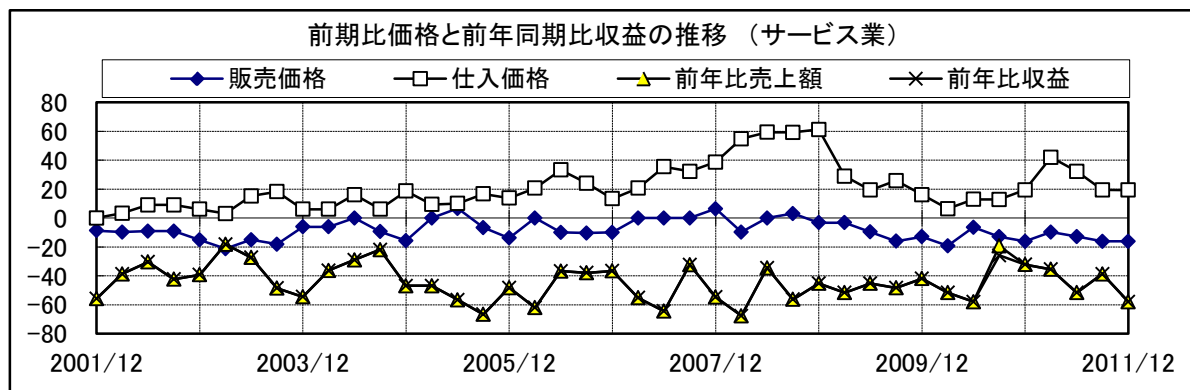
売上額、収益判断DIは、売上額が△58.1、収益が△54.8と、前期比それぞれマイナス値が拡大し 29.1、16.0 ポイント悪化した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
料金価格	-12.8	-16.2	-16.2	-19.4
材料価格	32.3	19.4	19.3	29.1

料金価格判断DI(△16.2)は、前期比横ばいで、価格低下基調となっている。材料価格判断DI(19.3)は、前期比プラス幅が 0.1 ポイント縮小し、僅かに価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、料金価格は旅館・自動車整備で上昇、洗濯・理美容で下降している。材料価格は、洗濯・理美容、自動車整備で上昇し旅館で下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-16.2	-16.2	-22.6	-22.6
人手状況	-6.4	-12.9	-9.6	-3.2

残業時間判断DIは△22.6と、残業時間が減少したとする企業割合は前期比 6.2 ポイント増加した。

人手過不足判断DIは△9.6と、前期比マイナス幅が縮小し 3.3 ポイント上昇、人手「不足」感を弱めている。

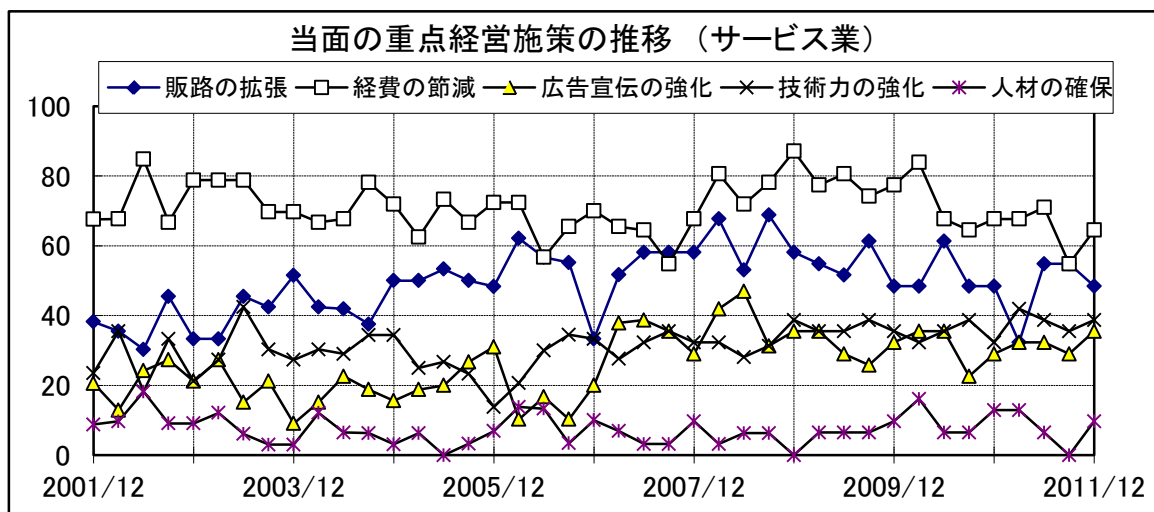
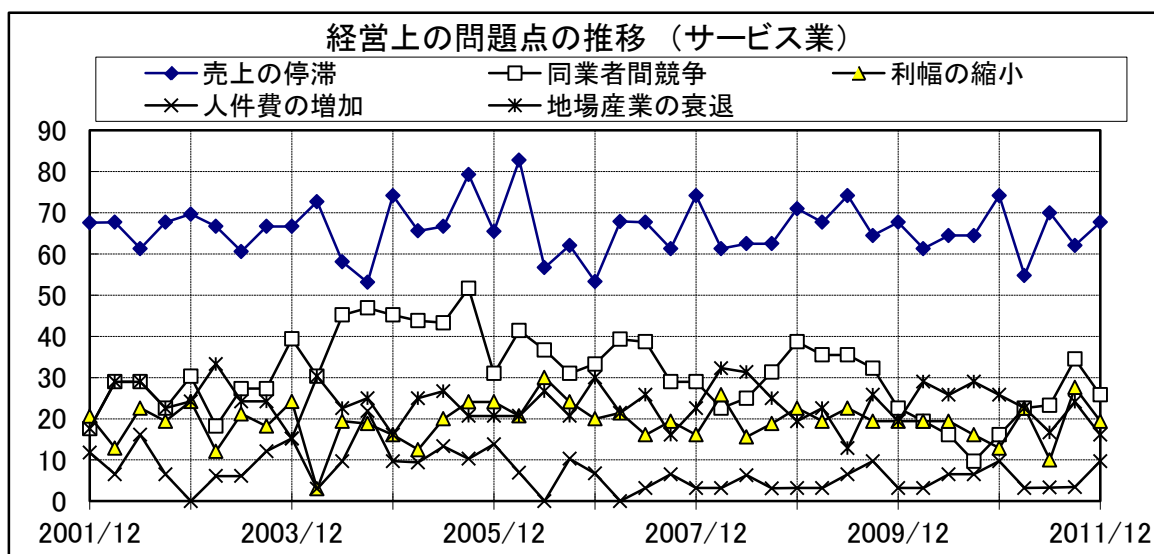
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは△35.5と、前期（△29.0）からマイナス値が6.5ポイント拡大し不足感を強める。一方適正と回答した企業は58.1%と、前期（51.6%）から6.5ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は29.0%と、前期（41.9%）比12.9ポイント下降、件数で前期の13社に対し9社の実施となった。来期の新規の設備は、当期比4社減の5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ67.7%、次いで「商圏人口の減少」54.8%、「同業者との競争」25.8%、「利幅の縮小」、「料金値下げ要請」19.4%、「材料価格の上昇」、「地場産業の衰退」16.1%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップにあげ64.5%、次いで「販路を広げる」48.4%、「技術力を強化する」38.7%、「宣伝広告の強化」35.5%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成24年1～3月期）の予想業況判断D Iは△61.4と、今期（△58.0）実績比3.4ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が△61.3（今期△58.1）、収益が△61.4（今期△54.8）と、今期実績比それぞれマイナス幅が3.2、6.6ポイント拡大し、悪化の見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断D Iは、料金価格が△19.4（今期△16.2）と、今期実績比マイナス幅が3.2ポイント拡大し価格低下基調が強まる見通し。一方、材料価格は29.1（今期19.3）と、今期実績比9.8ポイント上昇し価格上昇基調が強まる見通しとなっている。